

コスモス 8月号

第72巻 第8号

◆宮柊二カレンダー(65) 八月の歌

ふるさとの盆ぼんの祭まつりに離さかりつつ今宵こよひ酒飲ひとむ孤ひとりり
を見るな
歌集『晩夏』

終戦後の混乱から立ち直りつつあった昭和23年の作。当時、柊二は両親と妻と幼い子供たちを抱えて日鉄富士製鋼所に勤めていた。

「私はふるさとを捨てた人間だ」(楽しかった村祭)と言いつつも、限りなく篤い思いを寄せるふる里へ墓参りにも行けず、お盆の夜を過している寂しさと時代に対する空しさが「孤りを見るな」と叩きつけるような厳しい表現の根底に切々と迫る。

この時代に発表された随筆「抵抗と充足」「孤独派宣言」を改めて読み返した。(金子欣一郎)